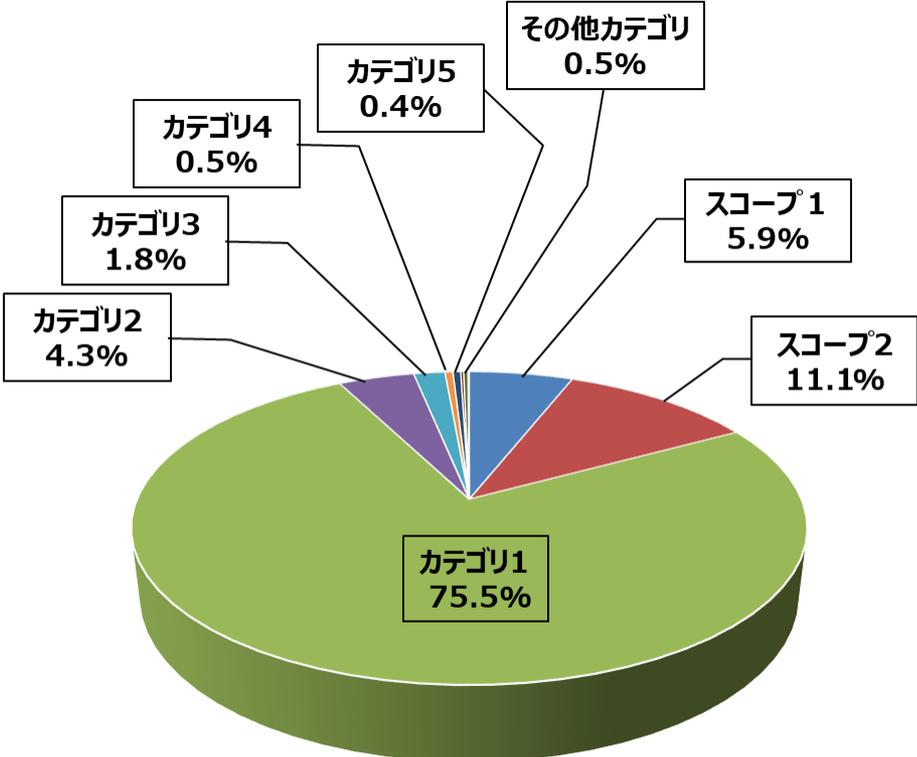


田辺三菱製薬株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：製造業(医薬品) ● 事業概要：医療用医薬品や一般用医薬品等の研究開発・製造・仕入・販売など ● 事業規模：売上：424,767百万円（2018年度） [連結] 従業員数：7,228名（2019年3月末現在） [連結]
2.削減目標案	<p><Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標：2030年までに2018年比で30%削減</p> <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標：カテゴリ1の80%に相当するサプライヤーに対しGHG排出削減目標を設定させる</p>

田辺三菱製薬株式会社

項目	内容																			
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : 33,416 [tCO₂] 																		
	 <table border="1"> <caption>GHG Emissions by Category and Scope</caption> <thead> <tr> <th>Category/Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリ1</td> <td>75.5%</td> </tr> <tr> <td>スコープ2</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>スコープ1</td> <td>5.9%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ2</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ3</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ4</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ5</td> <td>0.4%</td> </tr> <tr> <td>その他カテゴリ</td> <td>0.5%</td> </tr> </tbody> </table>	Category/Scope	Percentage	カテゴリ1	75.5%	スコープ2	11.1%	スコープ1	5.9%	カテゴリ2	4.3%	カテゴリ3	1.8%	カテゴリ4	0.5%	カテゴリ5	0.4%	その他カテゴリ	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : 62,443 [tCO₂]
	Category/Scope	Percentage																		
カテゴリ1	75.5%																			
スコープ2	11.1%																			
スコープ1	5.9%																			
カテゴリ2	4.3%																			
カテゴリ3	1.8%																			
カテゴリ4	0.5%																			
カテゴリ5	0.4%																			
その他カテゴリ	0.5%																			
	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : 467,803[tCO₂] 																			

田辺三菱製薬株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● リスク：大型台風、洪水、落雷、或いは干ばつなどの異常気象は当社事業の推進に様々な形で物理的な影響を及ぼし、生産供給体制の維持が困難になる可能性がある。 ● リスク：地球温暖化が進み施設外気温が上昇すれば、これまで以上に空調用電力が必要になり、エネルギーコストとCO2排出量の増加に繋がる。 ● リスク：法規制の強化(炭素税額の引き上げ、環境関連法令改正など)により対応コストが増加する可能性がある。 ● 機会：気候変動による気温上昇は将来の疾病構造や医療ニーズに影響を及ぼすと考えられ、蚊などの節足動物が媒介する感染症（マラリアや日本脳炎など）は今後増加が予想されることから、当社の重点領域であるワクチン事業の推進は社会への貢献につながることを期待できビジネス上の機会となる。 ● 機会：気候変動対策に積極的に取り組むことにより、企業価値の評価向上が期待できる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● ESG投資の拡大や気候変動問題への関心の高まりに伴い、ステークホルダーからの情報開示要求が増してきており、科学的根拠に基づくCO2削減目標を策定し、気候変動対策の取り組みを積極的に推進することで、そのニーズに応じて企業価値の向上に繋げる。 ● 中長期的な環境負荷削減目標と施策を実行して、パリ協定の目標を達成することでサステナブルな地球環境の実現に貢献する。

田辺三菱製薬株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 社内の調達部門など関係部署を巻き込みながら削減目標を設定し、社内関係部署のコンセンサスを得た後、経営層に削減目標の答申を行い賛同を得る。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2 の削減施策として、自家発電導入やグリーン電力購入など再生可能エネルギーの導入検討が必要（社内方針を決める必要がある）。● Scope 3 削減目標の達成に向けて、サプライチェーンへの働きかけに関するシナリオや検討が必要。